

◆「豊かな感性 強い日本へ」

文化庁長官と芸術系大学学長（首都圏及び国公立）によるシンポジウム

十二月二十一日、本学美術学部絵画棟大石書室において、文化庁長官と首都圏および国公立芸術系大学学長によるシンポジウム「豊かな感性 強い日本へ」が開催された。これは、文化審議会文化政策部会において「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第三次基本方針）が審議されていることに伴い、文化芸術の振興を通じた国力の強化に向けて、芸術系大学が果たすべき役割とその可能性について検討することを目的に実施されたもの。

シンポジウムは、近藤誠一文化庁長官、宮田亮平学長、久世建二金沢美術工芸大学学長、堤剛桐朋学園大学学長のほか、二十六におよぶ芸術系大学の学長らが出席するなか行われ、芸術系大学、地域、官公庁など多種多様な組織間のネットワークを構築し相乗効果を生み出すことや、人々の持つ「感性」を育む教育体制のあり方などについて活発に意見が交わされた。

最後に、取りまとめられた意見をもとに、文化庁と芸術系大学の連携や芸術系大学相互の連携の一層の強化などをうたった「政策提言」が宮田学長より発表され、近藤長官に手交された。



芸術系大学学長からの政策提言

「豊かな感性 強い日本へ」

長い歴史の中で培われた、日本独自の繊細な感性と磨き上げられた匠の技、そして思いやりの心は、第二次世界大戦後の荒廃をも乗り越え、奇跡的な経済成長を成し遂げる素晴らしい力となった。

しかし、経済的な成長が進むにつれ、日本が持っていた文化の素晴らしさは徐々に失われ、近年では将来の展望を描くことすら困難な状況にある。

そもそも文化とは人間の営み全てを包摂する概念であり、我々は、心が十分に育つてこそ科学や経済の花が咲くことを再認識し、心豊かな社会を実現しなければならぬ。

また、文化芸術は様々な活動における新たな付加価値の源泉であり、持続可能な成長が求められる現代にはもっとも相応しく、創造性や感性豊かな人材の育成は、芸術家に限定されることなく「強い日本」の実現のための喫緊の課題といえよう。

このため、芸術家や芸術活動を支える人材の育成を使命とする芸術系大学は、我が国の文化芸術の発展に積極的に貢献することを旨とし、以下の政策を提言する。

一 文化芸術の社会との連携を推進し、我が国の文化芸術の創造、発展、継承を担う人材の育成を強化すること
二 文化政策を推進するため、大学等の研究機関による文化芸術に関する調査研究の充実を図ること

三 我が国の特色ある文化芸術を世界に発信し、国際文化交流を活性化すること

四 本シンポジウムを契機として、芸術系大学相互のネットワーク作りや、文化庁と芸術系大学との連携に加え、初等中等教育における芸術教育に関しての連携についても一層強化すること

平成二十二年十二月

News 2010.08 - 2011.01

交流

◆大学間国際交流協定締結

七月九日、カタールニヤ工科大学バルセロナ建築学部（スペイン）と本学美術学部建築科は、建築、都市デザインとそれに関する芸術の交流を深めるとともに、教育および研究に関する協力をを行うことに合意し、芸術国際交流協定を締結した。

一月十一日、アアルト大学工学部建築学科（フィンランド）と本学美術学部建築科は、建築、都市デザイン、ランドスケープデザインに関する芸術の交流を深めるとともに、教育および研究に関する協力を行うことに合意し、芸術国際交流協定を締結した。これらの調印により、本学における交流協定締結校は、十七か国（地域）、四十八大学などとなった。

出版会活動

◆DVD「映画専攻 第四期生修了作品集 二〇一〇」を十一月十六日より発売
二〇一〇年三月に修了した映画専攻第四期生。短篇、長篇と数々の制作実習を重ねてきた学生たちが、その集大成として取り組んだ修了制作五作品を、今年もDVDとして発売。

収録される作品は、在学中に沢木耕太郎のルポルタージュ集「人の砂漠」を、豪華キャスト陣出演で映画化して話題となるなど、今後の活躍が期待される監督たちの作品群である。



東京芸術大学出版会の出版物などは、藝大アートプラザ、アマゾン（ネット販売）および一般書店にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ（〇五〇—五五二五—二一〇二）まで

受賞・受賞

◆吉村誠司准教授が「再興第九十五回院展」内閣総理大臣賞を受賞
美術学部絵画科日本画の吉村誠司准教授の作品「祭壇（バリ島にて）」が、「バリ島の祭壇を主題としながら、作者独特のモザイク模様でさまざまな夢や印象がちりばめられた楽しさにあふれる作品」と評され、再興第九十五回院展において内閣総理大臣賞を受賞した。

◆前田宏智准教授が「第三十九回伝統工芸日本金工展」で朝日新聞社賞を受賞
美術学部工芸科彫金の前田宏智准教授の作品「銅打出金銀彩花器」が、第三十九回

伝統工芸日本金工展において朝日新聞社賞を受賞した。

◆松下計准教授と八木澤優記非常勤講師が「ディスプレイデザイン賞 2010」優秀賞を受賞
美術学部デザイン科の松下計准教授と八木澤優記非常勤講師が総合ディスプレイデザイン展「資生堂・サントリーの商品デザイン展」が、ディスプレイデザイン賞 2010において優秀賞を受賞した。

◆松下計准教授が「CSデザイン賞」準グランプリを受賞
美術学部デザイン科の松下計准教授がディレクターを務めた作品「COLOR STUDIO」が、CSデザイン賞において準グランプリを受賞した。

◆塚原康子教授が「第二十七回田邊尚雄賞」を受賞
音楽学部楽理科の塚原康子教授の著書「明治国家と雅楽—伝統の近代化/国楽の創成」（二〇〇九年、有志舎刊）が、東洋音楽の分野において優れた研究成果を対象とする第二十七回田邊尚雄賞を受賞した。

◆東京芸術大学が「最優秀学校賞」を受賞
カナダで開催されたオタワ国際アニメーションフェスティバルにおいて、学生の作品三作が入選するなど、本学大学院映像研究科における人材養成が高く評価され、東京芸術大学に「最優秀学校賞（Best Animation School Showee）」が贈られた。

◆古田亮准教授が「第三十二回サントリー学芸賞」を受賞
大学美術館の古田亮准教授の著書「俵屋宗達—琳派の祖の真実」（二〇一〇年、平凡社刊）が、「俵屋宗達の魅力を一般の読者に語りながら、絵画の見方の変化を見事に浮かび上がらせた優れた業績である」と評され、第三十二回サントリー学芸賞を受賞した。

◆平成二十二年「藝祭」
九月三日から五日まで、「Planet Arts」をテーマに「藝祭」が開催された。



初日には美術学部・音楽学部の一年生らがひと夏かけて作り上げた八基の神輿が、サンバ隊を先頭に上野公園を練り歩いた。また学内では、三日間にわたって展示・演奏会・模擬店などさまざまなイベントが催され盛大な賑わいをみせた。

◆「藝大アーツイン 東京丸の内」

十月二十六日から三十一日まで、「藝大アーツイン 東京丸の内」が丸ビルで開催され、期間中の六日間で一万七〇〇〇名を超える来場者を迎えた。

本学と三菱地所株式会社が共同主催する「藝大アーツイン 東京丸の内」は、本学の若い才能により、丸の内からさまざまな文化・芸術を発信していくイベント。四年目となる今年は、近藤誠一文化庁長官の挨拶で華々しく開幕。続く宮田学

長、直野賛声楽科教授、高橋明也三菱一館美術館館長による鼎談をはじめ、美術、音楽、映像のコラボレーションで、連日多彩なプログラムを展開し、丸ビルに来場したお客様を魅了した。



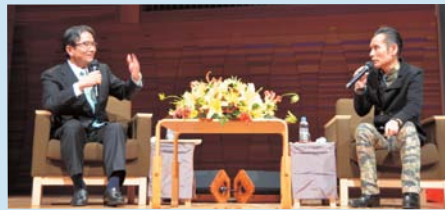
◆学長と語ろうⅧ

奏楽堂トーク&コンサート

十一月二十日、第八回「学長と語ろう 奏楽堂トーク&コンサート」が、ゲストに俳優、コメディアン、画家やボクサーなど多方面でご活躍の片岡鶴太郎さんを招いて開催され、約一〇〇〇名の来場者が約二時間にわたり対談と演奏会を楽しんだ。

第一部は〈命あるものゝ片岡鶴太郎さんを迎えて〉と題し、片岡さんの「赤い椿」との運命的な出会いから画家を目指したこと、俳優やコメディアンなど全ての活動の基本に「ものまね」があること、さらには宮田学長と共通する文字へのコンプレックスが過去にあったことなどが、随所にもまねや漫談を交えながら語られ、来場した観客を楽しませた。

第二部では、対談のお礼としてコンサートが開かれ、吹奏楽によるルイ・プリマ「シング・シング・シング」や、バグパイプを取り入れた中村克己編曲「バグパイプファンタジー」など、バラエティーに富んだプログラムによる演奏が会場を魅了した。演奏後に登場した片岡さんは、周囲のリクエストで指揮に初挑戦するなど最後までなかなか催しとなった。



◆第五回 藝大アートプラザ大賞展

十一月二十三日から十二月十九日まで、第五回「藝大アートプラザ大賞展」(テーマは「呼吸」)が、藝大アートプラザにて開催された。



これは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため平成十八年度から実施している学内アートコンペで、厳正な審査を経た入賞作品を展示、販売するもの。五回目を迎えた今回は、四十四名(九十一名)の応募があり、そのなかから選ばれた四十一名(八十二名)の作品が会場の藝大アートプラザを飾った。

藝大アートプラザ大賞を受賞したのは、大学院美術研究科修士課程工芸専攻(漆芸)に在籍する玉川みほのさんの作品「けろり」。

◆藝大フレンズ加入者状況

加入者数(平成二十三年一月三十一日現在)
賛助フレンズ 個人一三一一名 法人五団体

特別賛助フレンズ個人一六名

◆今年度下半期に開催された主な展覧会、演奏会記録
《大学美術館》

シャガール・ロシア・アヴァンギャルドとの出会い〜交錯する夢と前衛〜
会期 七月三日〜十月十一日
入場者数 二〇万七一九名
明治の彫塑 ラグーザと萩原碌山
会期 十月二十三日〜十二月五日
入場者数 一万三三三三名
黙示録―デューラー/ルドルン
会期 十月二十三日〜十二月五日
入場者数 一万三六一二名

《奏楽堂》

藝大21 和楽の美
邦楽絵巻「南都の夢 悟空ひとり旅」
開催日 九月九日
入場者数 七五三名
藝大オペラ定期第五十六回
「イル・カンピエッロ」
開催日 十月九日、十日
入場者数 八四五名、八四七名
ピアノシリーズ第五回「響」
ピアノとオーケストラのための作品
開催日 一月十日
入場者数 一〇五四名

第22号刊行にあたって

「東京藝術大学の価値は人にあり」という視線で、これまでおもに人に焦点を当てたりリニューアルを進めてまいりましたが、第22号においても引き続きその精神を踏襲しさらなるリニューアルを実施しました。

今号から2つの新連載が始まっています。ひとつは名だたる卒業生の方々に現在のご自分のお立場と大学時代に考えていたことや営んでいたことがどう影響しているのかをお訊ねする「卒業生に聞く」というコーナーで、初回は建築専攻を修了された石上純也氏にご登場願いました。もうひとつは「研究室探訪」と題し、日頃うかがい知ることのできない各研究室での指導風景を潜入レポートするもので、こちらの初回は、音楽学部器楽科でピアノの指導を行っている粕谷美智子教授のレッスン風景を取材させていただきました。どちらも大変興味深い内容に仕上がっておりますので、ぜひお楽しみください。

藝大通信編集長
松下 計

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式 Web サイト (<http://www.geidai.ac.jp/>) をご覧ください。

●展覧会についてのお問い合わせ

東京藝術大学大学美術館
Tel. 050-5525-2200
NTT ハローダイヤル
Tel. 050-5777-8600

●演奏会についてのお問い合わせ

東京藝術大学演奏芸術センター
Tel. 050-5525-2300

●演奏会チケットの取り扱い

藝大アートプラザ
Tel.050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel.03-5355-1280
チケットぴあ
Tel. 0570-02-9999
(一部携帯電話・PHS・IP 電話はご利用いただくことができません。)
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5685-0650

●藝大アートプラザのご案内

Tel. 050-5525-2102